

松泉閣

高林五峯筆 松泉閣看板

松泉閣は松阪市殿町の松坂城跡南側に大正12年(1923)に建てられた料理旅館です。現在建物は残っていませんが、令和5年(2023)で築後100年を迎えました。

松泉閣の創業者である内田貢(1875~1949)は松阪出身で、松阪の初午大祭で売られる「ねじりおこし」をヒントに東京浅草の「雷おこし」を考案したともいわれており、浅草土産として大ヒットさせました。そして、郷里松阪に豪華絢爛な大建築をし、その松泉閣の大広間は松阪の名物とまで称されました。

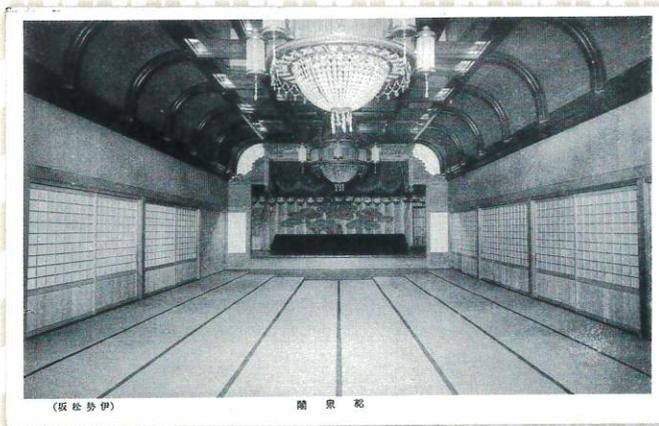
梶井基次郎(1901~1932)は大阪生まれの小説家で、大正13年(1924)8月、静養のため姉の嫁ぎ先である松阪を訪れました。この松阪滞在の実体験を題材に書かれた作品『城のある町にて』には「松泉閣」(作中では「松仙閣」)が登場します。

本企画展では松泉閣を軸として内田貢と、梶井基次郎(特に小説『城のある町にて』)を紹介したいと思います。また、大正時代の松阪の懐かしい風景写真もあわせて展示します。

松泉閣絵はがきのうち表門



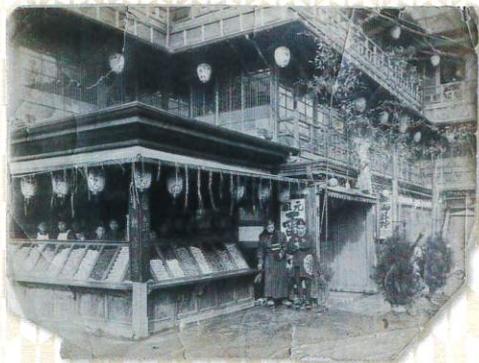
松泉閣絵はがき外袋



松泉閣絵はがきのうち大広間



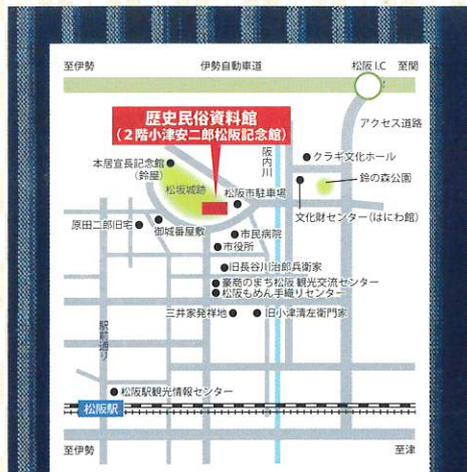
松泉閣御案内パンフレット(部分)



浅草「常盤堂雷おこし」建物写真(大正期)



梶井基次郎文学碑建設記念写真(個人蔵)



★ ミュージアムトーク ★

日時: 令和6年3月9日(土)

14時~(45分程度)

参加費: 無料(入館料のみ必要)

内田雄大さん(内田貢さんのひ孫)をお招きし、担当学芸員と対話形式のトークと展示案内を行います。

松阪市立歴史民俗資料館
(2階 小津安二郎松阪記念館)

〒515-0073 三重県松阪市殿町1539
TEL&FAX 0598-23-2381